

Oncology News

irAE 対策のステロイド投与は肺がんの OS に影響を与えず / Eur J Cancer

免疫チェックポイント阻害薬（ICI）治療中の進行肺がん患者において、ステロイド投与は生存アウトカムに影響するのか。スウェーデン・カロリンスカ大学病院の Marcus Skribek 氏らが、同院の進行非小細胞肺がん（NSCLC）患者について分析を行った結果、免疫関連の有害事象（irAE）を理由としたステロイド投与は、ICI 治療の有効性を妨げないと考えられることが示された。一方で、がん緩和ケアを目的とした高用量ステロイド投与は、予後不良となる可能性を示唆するものであることが示されたという。European Journal of Cancer 誌オンライン版 2021 年 1 月 5 日号掲載の報告。

研究グループは、カロリンスカ大学病院で ICI 治療中の進行 NSCLC 患者を対象に、生存アウトカムへのコルチコステロイド投与のタイムラインと投与の理由の影響を評価する検討を行った。

ステロイド投与は、プレドニゾン換算 10mg 超を 10 日以上と定義。投与の要因に基づいて患者を 3 群に分類した。1) がん緩和ケアではない支持療法のため、2) がん緩和ケアのため、3) irAE 対策のため。

さらに、タイムライン分析のため、患者を「ICI 開始の 2 週間前から投与 2 日後までコルチコステロイド投与を受けた」群と「ICI 治療コース終了後にステロイドを受けた」群の 2 群に分類して評価した。

主な結果は以下のとおり。

- 患者 196 例の分析データにおいて、46.3%がコルチコステロイドを投与されたことが示された。
- irAE 対策のためのステロイド投与は、ステロイド未投与との比較において全生存（OS）期間について影響は認められなかった（ $p=0.38$ ）。
- がん緩和ケアのためのステロイド投与のみ、OS を短縮する独立した予測因子であった（ハザード比：2.7、95%信頼区間：1.5~4.9）。
- ステロイド投与のタイムラインは、本試験対象コホートの OS について影響は認められなかった（ $p=0.456$ ）。

< 関連文献 >

Skribek M, et al. Eur J Cancer. 2021 Jan 5. [Epub ahead of print]

<https://pubmed.ncbi.nlm.nih.gov/33419647/>

当コンテンツは、株式会社ケアネットの監修により、がんに関連する重要論文を選別し、それらを簡潔に要約したニュースレターです。当社の見解を述べるものではなく、承認外使用を推奨するものではありません。内容の詳細については元文献・元ニュースを、製品に関する情報は各製品の最新の添付文書をご確認いただきますようお願いいたします。

尚、当コンテンツに掲載されている記事等に係る所有権、著作権その他一切の権利は、ニプロ株式会社、株式会社ケアネット、コンテンツ制作者等の著作権者が保有しています。